

多摩スポーツセンターでみらいの避難所体験会が開かれました（2023/9/2-3）

テーマ：みらいの避難所プロジェクト, 避難所体験, 防災の日
会場：多摩スポーツセンター（川崎市多摩区）

2023年9月2日から3日にかけて、多摩スポーツセンターにて川崎市民を対象とした避難所体験会が開催されました。本取り組みは川崎市、ボランティア・アーキテクト・ネットワーク（VAN）、東北大学災害科学国際研究所で2021年3月に交わした「災害時における避難所用簡易間仕切りシステム等の供給等に関する協定」に基づく3者の共催により、避難者への負荷が少なく、避難生活を快適に送れるような避難所プロトタイプの構築を目的とした「みらいの避難所プロジェクト」の一環として行われました。当研究所からは村尾修教授（国際防災戦略研究分野）が中心メンバーとして参加し、他に村尾研究室学生、建築設計スタッフとして坂茂特任教授（客員）（国際防災戦略研究分野）、川崎市職員、協力団体である（株）良品計画と（株）ライティングプランナーズアソシエーツ（LPA）のスタッフ、および川崎市民の、合計33名の参加がありました。

当日は全体説明のあと、建築家の坂特任教授（客員）が設計し、近年、避難所で広く利用されている紙管と布を使った間仕切りシステムを皆で協力して組み立て、全体の避難所レイアウトを決定し、各自の場所を選んだ後、ゴミの出ない段ボールベッド（MUJI）を各自が組み立てていきました。寝具は、無印良品キャンプ場で使用されている複数の寝具が提供され、各自の嗜好で選択され、個人空間が整備されました。

避難所での食事には冷たくなったお弁当やおにぎりが提供されることが多いのですが、今回いくつかの可能性を検討した結果、良品計画のデリバリーシステムによる温かい食事が提供されました。食事の後には、参加者が集まり、村尾教授による防災に関する講義、避難所における間仕切りシステム開発の経緯と避難所の問題（VAN）、良品計画の防災イベント「いつものもしも CARAVAN」と防災グッズの紹介によるワークショップが開かれ、参加者間の親睦を深めました。

これまでの避難所は夜の就寝時刻になると真っ暗になります。そこで今回は避難空間と離れた場所にフリースペースを設け、夜間でも自由に照明をつけて過ごせる場所を提供しました。また、個人空間とトイレまでの動線となる共有通路空間に照明を施す試みをしました。LPAの照明デザイナーが事前にそれぞれ特徴のある4種類の照明器具を選定し、そのうちの3種類を参加者の好みに応じて選定し、個人空間に設置していきました。また共有通路空間には暗闇で人の気配を感じると点灯する照明と常時点灯している照明を設置し、幻想的な夜の避難所景観となりました。

二日目の起床後には良品計画によりスープ、パン、おにぎり、そしてコーヒーが提供され、親密度が増した参加者同士の交流も活発になりました。

朝、8時半からの閉会式には福田紀彦川崎市長も訪れ、参加者やスタッフとの意見交換の場が設けられました。

今回、長期避難時のプロトタイプを考えて体験する機会をつくりましたが、実際には被害の大きさ、避難所が設営されるタイミングや状況、参加者属性などにより求められるニーズは多岐にわたります。今回の経験を踏まえ、引き続き「インクルーシブ防災」と「ストレスフリー」をキーワードとした「みらいの避難所プロジェクト」を進めていきたいと考えています。



会場となった多摩スポーツセンター



間仕切りシステムとレイアウトの検討



MUJI 提供の夕飯



ワークショップにおける照明の説明



用意された複数の照明器具



夜の避難所風景



寝具のある個人空間



閉会式に訪れた市長の挨拶